



(2)

大阪・犬飼堂廃寺

いぬかいどう



(1)

群、集落にともなう井戸、中・近世の土壌群などがある。中世の土壌からは、多量の瓦類のほか、「寺」「西城房」と刻まれた灯明台も出土している。

(1)の木簡は径約一・八m、深さ約三mの円形素掘り井戸から、墨書き土器を含む多量の土師器、須恵器とともに出土した。伴出遺物から九世紀代と推定できる。(2)の木簡は長径一・四m、短径一・二m、深さ約二・五mの円形の井戸より、土器、木製品とともに出土した。伴出遺物より一三世紀末から一四世紀初頭のものと推定できる。

8 木簡の釈文・内容

(1) □ 河内国丹比郡□□『□□□□□』
(321)×(12)×5 081

・「昔蘇民将来子孫住宅也」

・「南无五大力〔井カ〕」
162×(17)×2 081

9 関係文献

大阪府教育委員会・助大阪文化財センター『松原市觀音寺遺跡第2次発掘調査概要』(一九八六年)
(高橋雅子)



(岸和田)

所在地	大阪府岸和田市箕土路町
調査期間	一九七四年(昭49)三月～五月
発掘機関	岸和田遺跡調査会
調査担当者	近藤利由
遺跡の種類	寺院跡
遺跡の年代	平安時代後期～近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要	

犬飼堂廃寺は、岸和田市街地の北東にあたり、標高一二m前後の中位段丘上に位置する。北東側に隣接して、久米田池に源を発する天の川と呼ばれる小川が北西へ流れている。当該地周辺は、縄文時代以降の遺物、とくに弥生土器の散布が多くみられる箕土路遺跡として知られている。一九七四年、第二阪和国道(現国道26号線)工事関連区画整理事業の実施に伴い、発掘調

査が行われた。その結果、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器などのほか、平安時代後期以降の屋瓦片が多数出土した。遺構としては、

柱穴・井戸・小溝のほか調査地南端では、ロストル式の瓦窯も二基

検出され、寺院跡であることが確認された。木簡が出土したのは、

杉と思われる針葉樹の板を組み合せた円形の井戸からである。こ

の井戸は、板と板とを接合するのに竹の目釘が使われている。井戸

内からは中・近世の屋瓦類や牛のツメ切りに使用されたと思われる

小型鎌が出土している。

8 木簡の釦文・内容

(1) (穿孔)
「○[泉錦
カ]×

(108)×38×4 019

(穿孔)
「○[泉錦
カ]×

×

材質は針葉樹である。上部に小孔が穿たれていることから、付札のようないかと考へられる。「泉錦」が何を意味するのか明らかでない。

9 関係文献

大阪府立泉州考古資料館『記された世界』(一九八四年)

(近藤利由)

大阪・穂積遺跡

ほづみ

1 所在地 大阪府豊中市服部南町

2 調査期間 一九八五年(昭60)七月～八月

3 発掘機関 豊中市教育委員会

4 調査担当者 田上雅則

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代後期～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

穂積遺跡は、猪名川、天竺川、神崎川などの大小河川によって形成された沖積平野に立地する、弥生時代後期から室町時代に亘る複

合遺跡である。周辺には勝

部遺跡、田能遺跡、庄内遺

跡など学史的にも著名な遺

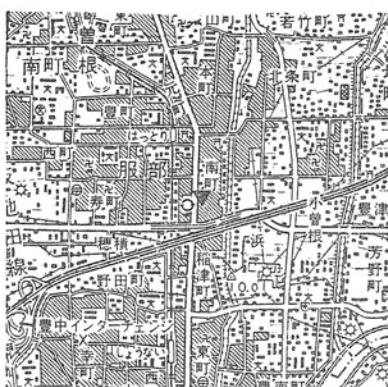
跡が点在し、また、大阪府

指定史跡の春日大社南郷目

代今西氏屋敷に所蔵される

『今西家文書』より、摂関

家領垂水西牧樺坂郷に含まれる事が判明しており、考



(大阪西北部)

37